姶良歴史ボランティア協会広報誌第８号　　発行日　平成 21 年 10 月 15 日(木)

あいらの歴史と物語

発行責任者：姶良歴史ボランティア協会
会　長　橘 木 雅 晴
編 集 者：広報部長　竹之下 洲 一

連絡先：〒899-5421 鹿児島県姶良郡姶良町東餅田 498　姶良町歴史民俗資料館 TEL 0995(65)1553

城野神社拝殿

ガイド練習報告

城野神社の伝説と宝物

吉　田　しげ子

姶良町の北西部、木津志の地に城野神社があります。この神社は、北に烏帽子岳、西に天狗山、東には長尾山と三つの山に抱かれた、日当たりのよい地にあり、祭殿には浄之御前が祭られています。平安時代からの伝説や、戦国時代を中心とした宝物など数多くあります。

伝説の一つは、保元の乱後、浄之御前の夫源為朝に関するものです。為朝は、父が持て余すほどの乱暴者で追放されたり、島流しにされたりしながら、行く先々で暴威を振い 15 歳ころには九州を略奪して廻り、鎮西八郎為朝と名乗り、身の丈七尺を越える大男で、弓矢の技に秀れ、左の腕が右腕より四寸長かったそうです。この剛勇聞え高い伝説は、伊豆八丈島から沖縄まで語り伝えられています。為朝の妻浄之御前も勇武の人で、為朝と国分の賊に攻め入ったこともあったそうです。愛馬（白馬）の足が泥土にとられ危く殺されそうになり、以来白馬は見るのも嫌になったそうで、木津志では白馬を飼育しなくなりました。

次に、戦国時代から桃山時代にかけて、義弘公に関するものです。義弘公は戦さの疲れを狩りで癒していたようです。親水公園の川原では猪を捕ると、家来たちが調理をし、その様子を義弘公は嬉しそうに見ておられたそうです。その時の岩が記念の大杉と碑と共にあります。

さらに、義弘公はある日急に腹痛に襲われました。行司役が一心になって城野神社に祈願するとたちまちにして治ったそうです。公は大層喜んで、荒れ果てていた神社の建て直しを命じ、1612 年に再建されました。

宝物には、刀工の一平安代が寄進した脇差、狩野惟信が描いたという壁画、御神体の銅鏡などがあります。身近なところでは、社殿の屋根を茅葺から瓦葺に改修した時にはずされた、石造りの鬼瓦があります。現在は、資料館の外庭に展示されています。阿形と吽形の一対が魔よけのため、社殿の棟柱などに掛けられていたものだそうです。

近ごろ、身近で鬼瓦など見る機会は少なくなりましたが、子供のころには神社には一人では行けないほど、仁王像や鬼瓦などが恐ろしくて走って帰ったものでした。

歴史民俗資料館では、これらの宝物や史料を気軽に見たり、調べたりして、姶良町の歴史の深さを知ることができます。

研修視察

都城の歴史と史跡発表

島津家久と庄内の乱

松　元　淳　一

慶長３年(1598)８月に豊臣秀吉が死ぬと、翌年３月９日秀吉のもとで異例の出世をした伊集院忠棟(ただむね)が、伏見(京都府)の茶亭で島津忠恒(ただつね)(後の藩主島津家久)に殺されるという事件が起きました。これに怒った忠棟の子忠真(ただざね)は、島津氏に反旗をひるがえし、都城盆地を舞台に「庄内の乱」と呼ばれる戦いを展開します。

慶長４年には、家久軍は都城を攻めましたが、忠真方の守りは固く戦いは翌年に持ち越しました。慶長５年２月から３月、乱は徳川家康の仲介や島津氏の家臣の協力で和議が整い、３月に伊集院忠真を頴娃１万石に移すことで１年余りの戦いは終わりました。忠真は頴娃在任後の 10 月には帖佐宇都近くの正ケ橋へ移されました。慶長７年忠恒は上洛の途中、日向国野尻で同道の忠真を殺害し、さらに、伊集院一族をもほぼ全員滅ぼしました。残ったのは妻の御下と千鶴だけだったということです。

都城の一国一城令と版籍奉還

恒　見　勝　則

元和元年(1610)閏(うるう)６月 13 日、江戸幕府は大名の統制とその軍事力抑制のため一国一城令を出しました。出されて数日後には全国で約 400 の城塞が破壊されたといわれています。

都城も 12 代忠能(よし)の時廃城となり、現在の都城市役所周辺に領主館を建設し、領主やその家来が政務にあたりました。つづいて武士の屋敷や町場も移転し、領主館を中心とした町となり、現在の市街地へとなっています。

明治２年(1869)、全国各藩が版籍奉還。鹿児島は小松帯刀(たてわき)が２月４日申し出ました。都城は２月 22 日、26 代久寛(ひろ)(26 歳没)が領土(３万９千石)領民(20843 人)の奉還を申し出、８月に認可され、500 年もの長い治世を終え、鹿児島市へ移住しました。

都城にとって、標題の２つの件は、まさに歴史的な転換となっています。

今町一里塚について

濱　口　純　則

国道 269 号線沿い、鹿児島県境近くに残っている一里塚は、薩摩藩が宝永６年(1709)に整備したものと思われています。天保９年（1838）の「幕府巡検使御道筋之図」には「鹿児島下町札の辻から 33 里」の標柱が描かれていました。日向筋を通ると、都城は鹿児島城下から 16 里ですが、里数が多いのは幕府の巡検使が城下から谷山・山川・根占・鹿屋・末吉のコースをたどったからです。当時は東側の塚には桜、西側には榎(えのき)が植えてあったと伝えられています。

昭和 10 年 12 月 24 日に国の史跡に指定されています。一里塚としては九州唯一の史跡です。

今町一里塚（西側）

去川の関跡

本　多　サチ子

16 世紀の終わり、島津義弘は国境の防備を固めるため関所を去川(ざるかわ)(現宮崎県高岡町)に設けました。現在ここには門柱と礎石だけが残っています。以来廃藩置県(1871)まで続きました。薩摩街道高岡筋は軍事目的・参勤交代・物資の輸送・連絡道として大変重要な役割を持っていました。関所では、厳しい取り調べが行われました。また、罪人が「日向送り」「長送り」になることは、死刑と同じことでした。西郷隆盛・僧月照の悲しい話はあまりにも有名です。

この関の御定番であった二見家の住宅は、現在宮崎市が整備し一般公開しています。

また、近くに国の天然記念物の樹齢 800 年の去川の大イチョウがあります。

ガイド実施報告

依頼者　鹿児島市郡山（史談会）
ふるさとを学ぶ会
御一行　26名

日　時　平成21年5月15日（金）
10:00～12:00
内　容　①白銀坂
②平松城跡と重富小学校正門
③凱旋門と日高壮之丞記念碑
④西田の田の神
⑤宇都の義弘公居館跡
⑥歴史民俗資料館内の展示物
案内者　①～⑤は、ボランティア　西田　實
⑥は、歴民館学芸員　深野　信之
反　省　館内の展示物の説明の外は、2時間の案内でありました。移動に1時間要しますので、必要最低の内容にならざるをえませんでした。
移動の際もマイクを利用してバス内で補足説明しましたが、味も素っ気もない一方的な案内に終わったなーと、反省しています。　（文責　西　田　實）

依頼者　三重県伊賀市摺見在住
重富寛氏夫妻（個人2名）

日　時　平成21年6月4日（木）
13:25～15:15
内　容　①歴史民俗資料館内の展示物
②「重富姓」について資料数件
③平松城跡と戦国武将島津義弘
④越前島津家案内板等2箇所
⑤「天璋院篤姫」と島津久光
⑥重富小学校正門・重富地区の範囲
⑦越前島津家紹隆寺墓地
⑧白銀坂登り口
⑨重富駅と重富郵便局
案内者　①は歴民館学芸員、下鶴弘・深野信之
②～⑨はボランティア　松元淳一
反　省　館内の説明は、当日午後のコースと時間設定の関係で概要だけとのことでした。
依頼者は「重富姓のルーツを訪ねて」の訪問でした。「姶良町や重富には、重富という地名があり、重富さんが多いのだろう」という期待と、地元の方ともお話がしたいというご希望があったようです。諸案内の中では「重富」の付くものに多くの興味と関心を寄せられ、質問もいただきました。約2時間の案内でした。「重富探し」の期待に充分添えたかはいささか疑問もありました。　（文責　松　元　淳　一）

依頼者　宮崎市高崎町史談会
御一行　32名

日　時　平成21年7月2日（金）
11:20～15:00
内　容　①歴史民俗資料館内の展示物
②宇都の義弘居館跡
昼食（笹寿司）
③凱旋門
④紹隆寺跡
⑤平松城跡
⑥白銀坂
案内者　①は、歴民館学芸員　下鶴　弘
②～⑥は、ボランティア　竹之下洲一
同　上　橘木　雅晴
反　省　吉田協会員にも手伝をもらい、案内いたしました。時間的余裕はあったものの、移動に時間がかかり、内容の説明は簡略化せざるをえませんでした。
大型バスで来られたので、史跡や昼食場所への移動コースの決定にとまどったり、史跡の近くまで行けなかったりで、苦労したところもありました。
説明の内容は、事前準備を十分しましたが、写真や系図を使うなどの工夫が必要だったと反省しています。
（文責　竹之下　洲　一）

歴史民俗資料館所蔵品紹介（1）

黒島神社お田植祭・田の神舞

歴民館学芸員　下　鶴　　弘

旧山田村の郷社であった黒島神社では，春の例祭日にカギ引き行事や上名棒踊りが奉納されています。今は踊られませんが、以前は写真のような田の神舞も奉納されていました。

田の神面（歴民館展示中）をつけた頭にはシキをかぶり、メシゲ(シャモジ)と鈴を動かしながらゆっくりとした所作で舞ったそうです。

面の墨書によれば、幕末の黒島神社神職であった溝口式部の依頼により、梯親信がこれを作り、安政７年（1860）の春の例祭日に奉納したとあります。

昭和 50 年代前半撮影　黒島神社境内にて

歴史用語解説　（竹之下　洲　一）

『梵字』　梵語を記すのに用いる文字で、梵天の作った文字という意味で、古代インドに行われた字母の事を言う。インドでは紀元前６世紀ごろから文字が発達し、47 字母が完成した。５世紀ごろにはグプタ文字が発達し、これを取り入れ６世紀ごろには完成した。

日本には、平安時代のころ伝来した。本町内では、山田の諏訪神社跡の板碑に金剛界大日如来を表す梵字が、また、船津の上場庚申供養碑には青面金剛を表す梵字が彫られている。

『廃仏毀釈』　明治初年の神仏分離と神道国教化政策のもとでの寺院・仏像・仏具などの破壊をさす。特に薩摩藩などでは徹底された。その跡は神社として再興されたところもある。姶良町内でも由緒ある総禅寺・願成寺・天福寺・紹隆寺・円明寺・心岳寺をはじめ、すべての寺院は破壊され、本尊は焼却、経巻・仏具などの貴重な文化財は消滅した。明治９年には、信仰自由の令達が出され、寺院の再興などが行われるようになった。

姶良町周辺の史跡紹介②

蒲生城（竜ヶ城）磨崖梵字

橘　木　雅　晴

蒲生町の中心街から南に見える標高 160mの山は、中世の豪族蒲生氏の居城「蒲生城」です。

この北東の岩壁、約 120mにわたって、1700 字の梵字が刻まれています。数の上では日本一といわれ、有形民俗文化財に指定され、「竜ヶ城磨崖一千梵字」と名づけられています。

不動明王をあらわす梵字(写真)をはじめ、素朴な彫りの地蔵菩薩、大黒天などの彫像、それに五輪塔もあります。

作家司馬遼太郎も 48 歳のころ、ここを訪れて『街道をゆく』に紹介しています。

竜ヶ城摩崖梵字

姶　郷（あいきょう）

尺貫法の世界

「一寸先は闇」「裸一貫」など、尺貫法の単位の入ったことばは今でも使われている。

昔から使用されてきた尺貫法が、メートル法に完全移行されて５０年、意味を理解できる人も少なくなった。歴民館の夏季特別展「数え方辞典」を見学する人が少なかったのは少し残念だった。

（恒　吉　一　洋）

天福寺跡磨崖仏群

鍋倉の高速道真下の小道を左折し、米山薬師入口をすぎると、白い砂岩の山肌があらわれ、その一角に天福寺跡の磨崖仏群がある。風化や廃仏毀釈のために、仏様の全体が残っている訳ではないが、寺院を見下ろすように建っていた像は、往時壮観だったと思われる。　（坂　元　清　美）

編集後記

８号には、ガイド実施報告を初めて掲載しました。反省点は次回からのガイドに生かしていきたいと思います。

都城の研修視察は地元の佐々木先生に案内をいただき、意義深いものになりました。

今後とも皆様のご支援をお願いいたします。